

ゆりのき台小コミュニティ・スクールだより



2020年12月号

発行者 ゆりのき台小学校 学校地域運営協議会

「コミュニティ・スクールとは？」

ゆりのき台小学校地域運営協議会委員 味岡 佳英(ゆりのき台自治会会長)

コミュニティ・スクールとは何でしょうか？文科省によれば、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。」とあります。



いつの間にか、地域と一体という理念ではなく、協議会を設置するということが目的となったようで、何か形があるものにしたがる如何にも中央省庁的な取り組みになっています。

では、三田以外ではどうなっているのでしょうか？私自身、大阪市の小学校で校長として勤めていた経験から大阪市を例に挙げます。

大阪市ではコミュニティ・スクールという呼び方はありません。というより、必要がないといった方が良いかもしれません。私が赴任していた小学校は創立90年程度の比較的古い学校です。大阪では明治や大正時代創立の学校が多くあり、地域の方々が土地や資金を出し合って創設された学校も結構あります。当然ながら、自分たち地域の学校という意識は強く、昔から「地域とともにある学校」だったのです。大阪市独自の学校協議会制度はありますが、改めてコミュニティ・スクールという制度を持ち込む必要はなかったのです。

私がいた学校でも地域とのつながりは強く、地元の町会(自治会)や諸地域団体、そして、校友会や歴代PTA会長会等、様々な団体に囲まれていました。校友会などは困ったことがあると、さっと手を貸してくれました。このように地域とのつながりが強い場合、時として過剰に学校に介入する場合がありますが、幸いにも私の学校の場合は「手は貸すが、あまり口は出さない」という地域でした。

また、このような地域では学校というのは地域の担い手の育成場所でもありました。小学校の保護者として地域デビューされ、活躍された方が、地域の担い手として育って行く。これが何世代にもわたって繰り返されていました。

このように、名ばかりではない、本当の意味でのコミュニティ・スクールを目指しませんか？「私たちの学校という思いで一体感を持ち、困った時には手を貸すが、過剰に介入はしない」という姿勢でゆりのき台小学校を地域の核として、みなさんと共に見守って行きたいと願っています。

来年度コミュニティ・スクール10周年を迎えます。

三田市初の「三田型コミュニティ・スクール」となったゆりのき台小学校です。当時の校長先生の思いと民生児童委員代表だった堀さんの思いでスタートし、先生方や地域の方々の理解と協力を得て進んできましたが、人が入れ替わるにつれ思いも薄れていくような気がします。10年を節目に、学校・PTA・地域が共に考え、力を合わせて次のステップを目指し、継続してより良い子どもたちの環境づくりができる形を整え、仕組みを作りたいと思っています。

「地域とともにある学校」へ
地域みんなで子供たちの未来を考えよう



子供たちのために学校をよくしたい
元気な地域をつくりたい
そんな「山」が輝く学校
それがコミュニティ・スクール